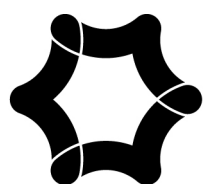


2020年度
社会福祉法人かがやき神戸
総括
分かりやすい版



KAGAYAKI KOBE



KAGAYAKI KOBE

つね りねん た かえ しょう ひと・かぞく い すがた まな。
・常に理念に立ち返り障がいのある人・家族の生きる姿から学ぶ。

だい きしょうらいこうそうじつげん む と く。
・第3期将来構想実現に向けて取り組む。

ちいき ほうじん
・地域でなくてはならない法人をめざす。

しょう しゃかんけい こうれい ほいく さまざま かんけいきかん れんけい しょうがいしゃ
・障がい者関係だけでなく高齢や保育など様々な関係機関と連携し、障害者

けんりじょうやく しんとう じんけん まも よ なか かつどうを
権利条約の浸透をはじめ、人権が守られる世の中にするための活動をする。

みんしゅてき うんえい いしき ぎろん・たいわ たいせつ
・民主的な運営を意識し、議論・対話を大切にする。

じんざいかくほ とも そだ しく ぐたいてき すす
人材確保と共に育つ仕組みづくりを具体的に進めていく。

じゅうどうしょうがいしゃたいおうがた けんせつ む と く
重度障害者対応型グループホーム建設に向けて取り組む。

こうべ おうえんだん ぶ こうほう けいはつかつどう ちから い
かがやき神戸の応援団を増やすためにも広報、啓発活動に力を入れる。

しょうらいこうそう じつげん しぎん
将来構想を実現するための資金づくり。

ほうさいげんさいいんかい た あ、だいきほさいがいたいさく けんとう
防災減災委員会を立ち上げ、大規模災害対策を検討する。

しんがた えいさよう さまざま たいさく と く おお
・新型コロナウイルスによる影響：様々な対策に取り組んでいく。多くの計画は中止したが、感染対策やZOOMの導入など、新たな取り組みを行った。

・明治安田生命より寄附を頂いた

・なでしこの里大規模修繕：外壁やエアコンの修繕を行った。雨漏りを止める事ができた。

・パワーハラスメントの発生

・にし障害者地域生活支援センターとたにがみ障害者地域生活支援センターの神戸市との委託契約が更新された。

・つくしんぼエアコン入れ替えを行った

じんざいきょうじくけんしゅう つく 、けいけんほんすう まちば ないよう
・人財共育研修システムを作り、経験年数や立場によって学ぶ内容について

けいかくてき と く つく
て計画的に取り組むしくみを作ることができた。

たじょうしゅう けんがく ちゅうしん かつどう よてい 、しんがた
・他事業所の見学を中心に活動を予定していたが、新型コロナウイルスの

えいさよう ほうもん じょうきよう けんせつよていちさが ゆうせん
影響で訪問ができない状況なため、建設予定地探しを優先した。

ほうじん、かくじぎょう さっしん
・法人、各事業のパネルを刷新することができた。ホームページ

こうしん おこな はっしん
の更新を行い、発信することができた。

しょうらいこうそうじつげん まんえんつ た
・将来構想積立金は520万円積み立てることができた。

ほうさいげんさいいんかい かいさい ほうさいげんさい さくせい
・防災減災委員会を開催し、防災減災マニュアルを作成した。

わかりやすい版 総括

2020年度 就労継続支援事業B型 なでしこの里



ピース班

- ・ピースカレンダーはコロナ渦で様々な影響がある中で、例年通りの売上が維持できた。
- ・防災グッズの新しい箱詰め作業に取り組み、誰もがができる作業として定着した。
- ・希望する利用者全員に、最寄り駅までの送迎を行い、通所機会を増やす要因になった。
- ・自粛の利用者には在宅訓練を行い、一日500円の工賃を補償した。

なでしこ工房

- ・弁当販売が一時的に減少したが、後半に回復したことで例年通りの売上を確保できた。
- ・利用者には時給400円、リーダー利用者には850円を保証することが出来た。
- ・焼菓子では委託販売先が1ヶ所増え、またネットでの応援企画で多くの方に販売することができた。
- ・食事提供加算では、安く提供できることで利用が増えてきている。



施設外作業

- ・請負先の事業である個別宅配の注文が増えたことで前年度より売上げが増えた。
- ・利用者一人一人の作業スピードの向上と、できる作業の幅が広がった。
- ・工賃の曜日別時給を530円・580円・600円に上げ、リーダーには860円に上げることができた。



なないろ

- ・期間限定の内職や新しい内職(パチンコ解体作業)が増え、比較的安定した作業を供給することができた。
- ・隣接するビニールハウスを無料で借りる事ができ、野菜栽培に新たに取り組んだ。
- ・自粛期間中、生活リズムや個別支援計画に影響が出ないよう配慮し、通所日、通所時間を柔軟に対応し、就労意欲の安定をはかることができた。

次年度からの売上げは今年度同様に厳しくなることが予想される。その中で、利用者の工賃保障や携わる作業をどう維持していくかが大きな課題になる。新たな発想を加味して取り組んでいきたい。

I 利用者の状況 1. 登録者数 93名 (2021年3月末現在) 精神障がいの方が一番多いですが、知的障がいの方が発達障がいの方より増えています。5年前と比べると、登録者全体に占める精神障がいの方の割合が10%減っています。 2. 1日平均 5.7名 (前年度 6.9名) 通所自粛のお願いをしていた1回目の緊急事態宣言中を除くと、平均通所者数は6.6名となり、前年の年とあまり変わりませんでした。土曜日の通所者数が平均13名と1週間の中で一番多いです。休日の余暇利用の希望が高くなっています。 3. 新規登録者 8名 (精神障がいの方4名、知的障がいの方4名の計8名が登録しました。) 4. 退所者 5名 5. 見学者 13名 (紹介機関：障害者地域生活支援センター、区役所、精神科病院、訪問看護ステーション、家族会、就労継続支援事業A型、法人内事業所) 6. 就労継続支援事業B型への移行者 3名	II 日中活動支援(プログラム活動など) 1. 新型コロナウイルスの感染防止対策を取りながら、プログラム活動を行いました。カラオケ、外食会などのプログラムはお休みしました。 2. いろいろな取り組みでいるピニールハウスでの野菜作りを希望する虹の里利用者も取り組みました。ボランティアさんにも手伝っていただき、収穫や水やりなどを楽しんでいます。 III 個別支援 1. 面談 71件 (前年度 87件) 電話相談 3148件 (前年度 3339件) 1回目の緊急事態宣言中は通所自粛のお願いをしていたこともあり、電話相談の件数が増えました。新型コロナウイルスへの不安やストレスを訴える内容が多かったです。 2. 訪問 12件 (前年度 20件) ・買い物付添い 2件 ・住宅管理会社の訪問立ち合い 2件 ・通院付添い 2件 ・ケースカンファレンス 2件 ・緊急事態宣言中の1人暮らしの方への訪問 2件 ・引っ越しのための荷物引き取り 1件	IV 地域交流 実習生やボランティアさんの受け入れを行い、交流や啓発を行いました。毎年恒例のヨットクルージングや地域の夏祭りは新型コロナウイルスの影響で中止になりました。地域清掃を3回行いました。
III 利用者の状況 1. 登録者数 93名 (2021年3月末現在) 精神障がいの方が一番多いですが、知的障がいの方が発達障がいの方より増えています。5年前と比べると、登録者全体に占める精神障がいの方の割合が10%減っています。 2. 1日平均 5.7名 (前年度 6.9名) 通所自粛のお願いをしていた1回目の緊急事態宣言中を除くと、平均通所者数は6.6名となり、前年の年とあまり変わりませんでした。土曜日の通所者数が平均13名と1週間の中で一番多いです。休日の余暇利用の希望が高くなっています。 3. 新規登録者 8名 (精神障がいの方4名、知的障がいの方4名の計8名が登録しました。) 4. 退所者 5名 5. 見学者 13名 (紹介機関：障害者地域生活支援センター、区役所、精神科病院、訪問看護ステーション、家族会、就労継続支援事業A型、法人内事業所) 6. 就労継続支援事業B型への移行者 3名	III 個別支援 1. 面談 71件 (前年度 87件) 電話相談 3148件 (前年度 3339件) 1回目の緊急事態宣言中は通所自粛のお願いをしていたこともあり、電話相談の件数が増えました。新型コロナウイルスへの不安やストレスを訴える内容が多かったです。 2. 訪問 12件 (前年度 20件) ・買い物付添い 2件 ・住宅管理会社の訪問立ち合い 2件 ・通院付添い 2件 ・ケースカンファレンス 2件 ・緊急事態宣言中の1人暮らしの方への訪問 2件 ・引っ越しのための荷物引き取り 1件	III 個別ケース (1) 障害者施設を利用するのが初めてのの方が数名登録されました。まずは虹の里に通所することから慣れていき、その方の希望にそって就労継続支援事業B型などへ移ることが出来るような支援を行っています。 (2) 新型コロナウイルスに関する連絡を利用者やご家族に行く機会が増えたことで、日頃お話をする機会の少ないご家族ともつながりを持つことが出来ました。
IV 地域交流 実習生やボランティアさんの受け入れを行い、交流や啓発を行いました。毎年恒例のヨットクルージングや地域の夏祭りは新型コロナウイルスの影響で中止になりました。地域清掃を3回行いました。	IV 地域交流 実習生やボランティアさんの受け入れを行い、交流や啓発を行いました。毎年恒例のヨットクルージングや地域の夏祭りは新型コロナウイルスの影響で中止になりました。地域清掃を3回行いました。	IV 地域交流 実習生やボランティアさんの受け入れを行い、交流や啓発を行いました。毎年恒例のヨットクルージングや地域の夏祭りは新型コロナウイルスの影響で中止になりました。地域清掃を3回行いました。

☆☆☆ 仕事 ☆☆☆

① 厨房 (16名)

- メンバーさんの給食が増えました。
- 地域の高齢者に夕食弁当を宅配しました。
- 弁当配達や洗濯作業だけに組む人が増え、調理も役割分担して意欲的に取り組みました。

③ 軽作業 (34名)

- コロナの影響は少なく、下請け作業(3社)や紙袋作業に取り組みました。
- A病院でのおやつ販売は休止となりました。
- 感染対策のため人数制限しシフト制としました。
- 軽作業を希望するメンバーさんが増えたので、希望通りに作業できるよう工夫が必要です。

② 喫茶 (17名)

- 1ヶ月半休業し、感染対策をして再開しました。
- 喫茶を希望するメンバーさんが増え、シフトがいっぱいになりました。ランチ時間帯も接客できるメンバーさんが増えました。
- メンバーさんが仕事をしやすい工夫を続けます。

④ 出張喫茶(施設外就労) (16名)

- B病院での「喫茶たんぽぽ」と「コミュニティカフェGREEN」が約4ヶ月休止となりました(まだ再開の目途が立ちません)。

コミュニティカフェRico



～新型コロナウイルス感染症の影響で、

仕事が減って残念でした。

「感染対策」と「交流」の両立を大切にしました。～

☆☆☆ 仕事以外の活動 ☆☆☆

- 開館時間の短縮や人数制限、一方の椅子配置、外出レクの休止や、レクリエーションの内容、調理プログラムの変化など、ストレスのかかることがありました。
- メンバー自治会では、選挙で選ばれた役員さんが中心に話し合う形が定着しました。
- ピアサポート活動の取り組みや高齢の方の個別サポートなど、生活を充実させる取り組みも大切に行っています。

☆☆☆ 地域交流 ☆☆☆

- 「コミュニティカフェRico」のうたごえ喫茶や「Ricoまつり」を開催できませんでした。
- 感染対策をして、障がい理解のための啓発・交流ができるように考えます。



これからも「ミニなでしこ」では「コミュニティカフェRico」を中心に、仕事と生活のサポート・地域交流をすすめていきます。

もりともりょう ねんどそうかつ グループホーム森友寮2020年度総括

◎ 新規利用者 4名

せいしんかびょういん たいいん 2めい にゅうしよしせつ 2めい かた うけいれた
精神科病院からの退院された方は2名、入所施設から2名の方を受け入れた。

なか 1めい じどうようごしせつ さい 18さい みせいねん うけい
その中の1名は児童養護施設から18歳の未成年を受入れた。

◎ 退居者 4名

ひとりくらし すす かた 1めい ほかほうじん うつ かた 1めい
一人暮らしへと進まれた方は2名、他法人のGHへ移られた方2名だった。

た うち 1めい こうれい にんちしやう はつしやう かいごほけんぶんや うつ
他GHの内1名は高齢のため認知症を発症したため介護保険分野のGHに移った。

ことし とくちやう 今年の特徴

- 2020年度は病院の通院や買い物と一緒にいく同行支援の件数が132件と大きく増えた。40歳以上の方が内科や泌尿器科、外科に行くなど体の具合が悪くなったのと、一人暮らしを始める方の買い物支援に行くことが多かったからです。

しんがた 新型コロナウイルスについて

- 感染を防ぐために休日の外出先の自粛をしました。そのためグループホーム内だけで過ごすことになり、みんなと出かけてレクリエーションをすることが出来ませんでした。
- 緊急事態宣言中は神戸市体験型グループホームの利用をやめました。
- みんなと一緒に生活するグループホームでは、他人と接触を避けるのは大変難しい環境です。集団感染とならないように常に緊張と不安を抱えながら生活を送りました。

そうだん けいこう 相談の傾向

- ・1年間の相談件数は8,106件でした。
- ・相談の約半分は精神障がい(せいしんしょうがい)の当事者からでした。
- ・コロナの影響(えいきょう)で昨年よりもヘルパーの利用調整(りようちようせい)が難しく(むずかしく)時間(じかん)がかかりました。
- ・ヘルパーや通所先(つうしよまえ)の調整(ちようせい)、学校(がっこう)や訪問看護ステーション、あんしんすこやかセンターなどと連携(れんけい)を図(はか)りました。

しよくいん 職員のスキルアップとチームワーク

- ・職員(しやくいん)全体(かいてい)で各職員(かくしやくいん)の予定(よてい)や仕事(しごと)の内容(ないよう)を確認(かくにん)しました。持っている仕事(しごと)の内容(ないよう)や量(りよう)によって、訪問(ほうもん)や調査(ちようさ)の体制(たいせい)を調整(ちようせい)しました。
- ・職員(しよくいん)同士(どうし)で相談(さうだん)しやすい雰囲気(ふんいき)を作り(つく)り、1人の職員(しよくいん)が問題(もんたい)を抱え(かか)込まないよう(に)しました。
- ・研修(けんしゆ)を企画(けんかく)、外部(がいぶ)の研修(けんしゆ)にも積極的に参加(さんか)しました。

まどぐちかいせつじかん 窓口開設時間

へいじつ	し
平日	9時から19時
どにちしゆく	し
土日祝	9時から17時

しょうがいしゃちいきせいかつしえん にし障害者地域生活支援センター

ふ かえ 2020年度の振り返り

にしくじりつしえんきようぎかい 西区自立支援協議会

- ・新型コロナウイルス(しんがたえいせきよう)の影響(えいきょう)で、ワールドカフェや交流会(こうりゆうかい)を開催(かいさい)することができませんでした。
- ・7月(がつ)に全加盟事業所(ぜんかめいじぎょうしよ)へ「新型コロナウイルス(しんがた)に関するアンケート」を実施(じっし)し、感染拡大防止(かんせんかくだいほうし)の方法(ほうほう)や利用者(りようしや)の状況(じようきよう)や対応(たいおう)について情報(じようほう)を共有(きようゆう)しました。
- ・コロナ禍(か)においても当事者(とうじしや)の声(こゑ)を聞く仕組み(しくみ)づくりが必要(ひつよう)です。

せいしん ピアカウンセリング (精神)

①グループピアカウンセリング 第3日曜日

⇒延べ16名(えい ぎんが)が参加(さんか)しました。

②家族(かぞく)のつどい 奇数月(きすうつき) 第1日曜日

⇒参加者(さんかしゃ)はありませんでした。

来年(らいねん)は、家族(かぞく)のニーズ(ニーズ)の発掘(はつくつ)と参加(さんか)しやすい企画(けんかく)を考(かんが)えます。

たきのうがた
多機能型つくしんぼ総括

さきょうはん しごとないう
☆作業班と仕事内容

ゆめゆめ班 はん	あおぞらはん 青空班	したう はん 下請け班	ちゅうぼうはん 厨房班	きつさ せいそうはん 喫茶・清掃班	はん スマイル班
リサイクル ↓	リサイクル仕分け ↓	したう さきょう 下請け作業	お弁当作り ゆうしょく 夕食づくり	きつさ せいそう 喫茶・清掃	よもぎの入浴剤 にゅうよくざい
ポスター作製 さくせい	自主製品や下請け作業 じしゅせいひん したう さきょう ↓				

※ゆめゆめ班・青空班は、コロナの影響でバザー開催がなく、仕事内容の変更をした。

○生活介護つくしんぼ

★仕事内容

・ポスター作製

・物品販売(夏季、冬季、春季)

・下請け(機関誌封入、内職作業など)

・自主製品(マスク作りやビーズ) など...

くま
車いすの利用者が作った
ポスターがお弁当のパッケ
ージになりました。



○仲間が1年間がんばって稼いだお金

・つくしんぼに入ったお金...2,892,658円(2019年度 4,581,199円)

⇒コロナの影響で、大幅に減収に...

○お給料

仲間にお給料として払ったお金...681,954円

工賃平均月額...2,134円

○就労継続支援事業B型だんだん

★仕事内容

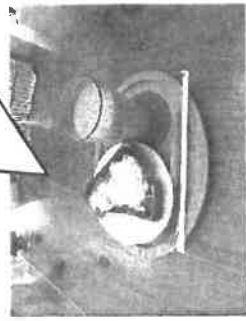
・給食(年間16,785食)や夕食作り

・清掃(とまり木・つくしんぼ)

・喫茶(くろーばあ)

・自主製品(よもぎの入浴剤) など...

きつさ
喫茶くろーばあで軽食(ピザセ
ット300円)を始めました。
おいしいですよ!!



○仲間が1年間がんばって稼いだお金

・だんだんに入ったお金...9,460,181円(2019年度 9,880,019円)

⇒コロナの影響は受けたが、大幅な減収にはならず

○お給料

仲間にお給料として払ったお金...3,094,652円

工賃平均月額...8,296円

就労継続支援事業B型ぐりいと

活動内容

利用者数: 16人(知的障害 精神障害 身体障害 高次脳機能障害) 年齢(20代・6人 30代・5人 40代・4人 50代1人) 1
 日平均利用者数: 11人 利用者工賃: 平均月額6192円

*クラウン公演活動や掃除の仕事、下請けの仕事、もーみーちゃんなどの自主製品を作って売る仕事と、書道サークルやヨガ、芸術活動、勉強会などの活動にも力を入れました。クラウンの公演はコロナウイルスの影響で少なく、一人の平均工賃は去年より4500円近く下がりました。

自主製品・清掃作業・物品販売の仕事

* その人が得意とする仕事への取り組み



バッジやアクリルたわしの制作販売にも取り組んでいます。

ヨーガ

集中力がつき、心と身体が
 やわらかくなります



ヨーガ講師
 わしおあいこし
 鷲尾愛子氏

活動内容

クラウン

収入 万円

公演回数 8回

* 公演とつくしんぼ、ひだまりの仲間向けのクラウンレクリエーション、ミュージカルのオンライン公演



クラウン講師として
 しらいひろゆき氏・くがじゅんべい氏
 白井博之氏・久家順平氏
 に指導してもらっています。

芸術活動・書道

- * 個人課題に取り組む
- * 長い時間をかけて一つの作品をつくる
- * 自分のやりたいことを見つける
- * 字で自分の気持ちを外に出す
- * いろんな形の表現力を身につける



* その他の活動

〇ぐりいとスクール

署名の学習会や、仲間同士、お互いを理解するための企画など今年もいろいろやりました。

〇土曜日のお楽しみ開所

みんなでパフェを作ったり、かき氷を作ったり、豚汁を食べたり、クイズやゲームをしたり
 楽しい催しをたくさんしました。

ねんど と く
2020年度に取り組んだこと

グループホームで健康に
過ごすために

新型コロナウイルスに感染しないように、
毎日の掃除・消毒をして清潔に保ち、
定期的な大掃除も職員全員で取り組ん
で、グループホームの環境を
整えました。利用者の部屋も必要に応じ
て、一緒に整理整頓を行いました。パー
テーションの設置など飛沫感染対策にも取
り組みました。



グループホームの生活を
もっと住みやすくするために

火事や地震などの災害があっても即時
対応できるように災害訓練を行ったり、
緊急避難についての方法などをマニユ
アル化して誰でも分かりやすく動けるよう
に共有しました。地域の方へヘルプも出
せるように要援護者支援の登録も行いま
した。



体調の管理の為、日々の検温の実施と通院
の付き添いや、通院状況の報告と共有、
薬の管理などに取り組みました。
※2020年度に付き添いを行った通院の数
は84件でした。

家族・利用者の高齢化により、帰省が出来
なくなってきた利用者に応えるため、
ヘルパーや日中職員の確保や、デイサー
ビスの介護サービスも利用するなど、安心
して過ごせる選択肢を増やすようにしまし
た。

グループホーム事務所

利用者の支援をもっと出来るように支援者
の人員を増やして日中の支援に対応できる
ようにしました。重度障害者や高齢者だけ
でなく、緊急時にもすぐ対応できるように
なりました。

地域の一員として

地域のイベントはコロナ禍によりほとんど
無くなってしまいましたが、災害時を想定
し、地域の要援護者支援活動に登録して
障害者のいるグループホームを知っても
らう機会を作りました。

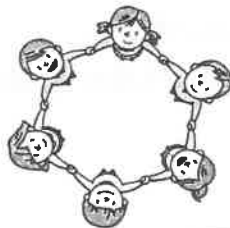
これからの
取り組み

利用者がいつまでも安心して住む家として健康的に過ごすことが出来るグルー
プホーム作りを考えながら、地域や医療などにも連携が取れるような新たなグ
ループホーム建設の実現を目指します。

2020年度 ショートステイ とまり木総括

1. 職員間の連携について

連泊する方が多くなった今年度は、1泊目と2泊目の職員が違うので薬や持ち物など多くの情報を正確に伝える必要性がさらに大きくなりました。月に1回だった職員会議を、月2回にして情報共有できる時間を増やしました。日中活動とも連携を深めることで、いろんな方向からサポートができるようになりました。



3. 個別面談の実施

個別面談の中で、家での様子やとまり木へのニーズなど把握することができました。また、ご家族の方にもとまり木での様子や、支援を知っていただき、信頼関係につながる大切な機会となりました。



5. 防災に対する意識向上

火災訓練と土砂災害を想定した防災訓練をグループホームと合同で実施しました。定期的な訓練と日常の中で確認などが繰り返し必要であると実感しました。



2. 学ぶ機会を作る

他事業所で活きた実践に触れることはできませんでしたが、介護技術の外部研修に参加することができました。お互いに学んできたことを報告し合い、知識や技術を職員全員で共有して、みなさんに安心して利用して頂けるよう、とまり木の中でも取り入れてきました。

4. 日中一時支援の取得

入浴の一時支援が必要なケースがありましたが、今年度は常に緊急時に宿泊ができるように1名分確保していたので、宿泊利用で対応できました。でもこれからもニーズに応えられるように、日中一時支援事業の申請を検討してきました。

6. 開所日を増やす

目標は23日/月でした。4・5月は緊急事態宣言に伴って閉所となり年間目標には達しませんでした。職員1名増えて、6月から平均開所日は20日/月と前年度を上回った。

たにがみ障害者地域生活支援センター



1. 相談について

- ・相談件数：合計3, 167件。昨年2, 046件より大幅に増加した。利用者と相談員の関係が構築されたり、関係機関ともつながりが深くなって連携がとれてきた結果と考える。
- ・他機関とのケース会議 22件：コロナ禍でも、虐待を受けた方や事件を起こした方の支援について考える会議については定期的におこなった。
- ・コロナの影響で相談が自立って増えることはなかったが、通所日数が減ることによって不安になって電話相談が増えるケースがあった。

2. 計画相談支援

- ・契約者数 17名
- ・区内の特定相談支援事業所が閉鎖することになり、2名のケースを引き継いだ。
- ・コロナ禍のため、オンラインで家族とのモニタリング会議をおこなったケースもある。



3. 精神家族のつどい（グループピアカウンセリング）

- ・参加者 延べ96名（実人数20名）
- ・精神障害のある方の家族が月1回集まって語り合い、気持ちの分かちあいをした。
- ・緊急事態宣言発令中の4月5月は中止したが、年間の参加者数は昨年よりも増えた。新しい参加者も5名あった。

3. 職員のスキルアップや、チームワークをよくするために

- (1) 事例検討会：年3回の予定であったが、1回のみの実施にとどまった。
- (2) 月2回程度のミーティングでは報告や確認事項を中心に、月1回の職員会議で検討を中心に会議をした。併設の3事業所合同で毎日朝礼と終礼をおこない、情報共有や支援の検討等をおこなった。
- (3) 研修：コロナの影響で研修の参加が少なかった。にし障害者地域生活支援センターの職員研修や事例検討会に参加し、意見交流や学びの場となった。



4. 北区自立支援協議会

- ・事務局として、総会、くらし部会、定例相談支援部会を担当した。
- ・権利擁護部会での研修「一流の支援者をめざして 障害者権利条約を実践の根底に 一人ひとりに問われること（講師：藤井克徳氏）」をオンラインで実施し、26名の参加があった。

5. 神戸市地域支援機能強化事業（※今年度で受託終了）

コロナ禍で活動が困難な状況があったが、地域生活チャレンジ研修「親なきあとも自分らしく生活するために」の開催や、「北区精神障がい者に関する地域連絡会議（ひかりの会）」をオンラインでおこなった。

神戸市発達障害者北部相談窓口

啓発

発達障がいのことをよりみなさんにわかってもらえるように活動しています。
* コロナのため中止や延期もありました。

① 特性支援を考える会の開催(3回、延べ19人)
支援者に、発達障がいの方が、どんなことで困っているか?悩んでいるかを体験してもらい支援の工夫を考える会を開きました。
同法人内:3回 Zoom:1回

② 学生・実習生へ説明(41人)
精神保健福祉士、看護師を目指す学生や先生に発達障がいの説明と疑似体験をしました。
福祉の学校で発達障がいの授業をしました。

③ 個別支援会議の参加(11名、19回、延べ90名)
就労訓練中の事業所や仕事の実習先、職場へ行き、本人を囲んで発達障がいのある方への関わり方、支援の方法をアドバイスしました。
引きこもりや生活苦の会議もありました。

相談

発達障がいに関する相談を受けています。電話、面談どちらでも構いません(予約制)。
・ 2017年度から相談対象が18歳以上から15歳以上(中学卒業後)になりました。
・ 相談窓口ができて12年になりました。

【2020年度】

相談人数 137人 ※前年度は136人

① 相談者の世代

[世代別] ※新規の思春期(16~18歳)相談者:6名

0歳	7人	13%	16歳	40代	60代
1歳	12人	15歳	20代	50代	以上
1%	4%	3%	11%	23%	3%
				25%	2%

② 相談される人の悩み(複数回答)

現在の生活、家庭、家族ができること	36%(565件)
仕事について	25%(381件)
発達障がい、診断について	12%(183件)
通学・利用中サービスについて	16%(247件)
利用できる制度について	8%(117件)

まとめ

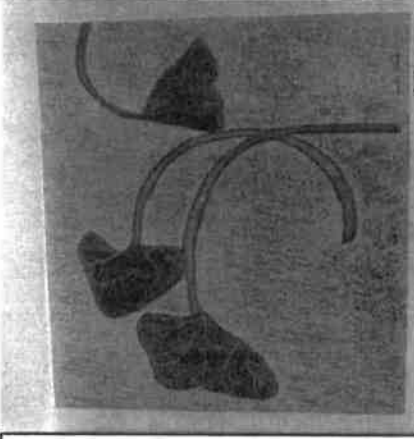
【相談の傾向】

- 就職や仕事に関する相談
・ 就職や職場のストレス、休職、転職
- 引きこもりやコロナに関する相談
・ 8050問題や大学のリモート授業の負担など
- きょうだいからの相談
・ 仕事、生活、将来のことについて
【今年の特徴】(初めての取り組み)
・ 面談:コロナの感染対策(アクリル板、空気清浄機) タブレットを使い好評だった。
・ Zoom:会議や研修をリモートで行った。
・ 進路説明会:会場を学校から地域に変えて、今まで行けなかった方が参加できました
・ SST:妻が夫への接し方を学び練習する

【相談員として】

- 関係機関と信頼関係をつくるためたくさん訪問するとケースの紹介と連携が増え、困っている方が窓口につながり相談できました。
- 窓口を知らない、来られない人の抵抗が少なく話しやすい新しい方法も考えます。

しょうがいしゃちいきかつどう
障害者地域活動支援センターひだまり総括

利用者のこと	相談
りようしゃ 利用者のこと ① とうろく者 52名 まいにち りようしゃ かず にん ② 毎日の利用者の数 6人 あたら とうろく ひと にん ③ 新しく登録した人 7人 けんがく ひと にん ④ 見学にきた人 15人 ハロウィンパーティー↓	ともだちかんけい ①友達関係のこと りよう ②ショートステイの利用のこと いえ ③コロナで家でできること でんわ でんわでの相談 514けん らいしよ ひだまりに來所しての相談 83けん さくねん 昨年より相談が増えました！
プログラム ことしはじめてのプログラム ひと き ①ほけんしの人が来てくれて、コロナの勉強会 さくせん ちいき ②クリーン作戦（地域のそうじをしました！） わたし じぶん ③私のトリセツ（自分のこと、相手を知るための） ふくろ ④サシェづくり（におい袋） さくひん ⑤ラミネートをつかった作品（コースター） ことし 今年のカレンダーに選ばれました⇒ はたらく仲間カレンダー5月	
しょうくいん けんしんゆう べんきょう 職員の研修・勉強 はったつあどぐちしよくいん こうし ①たにがみ・発達窓口職員が講師になったの勉強会（テーマ：障がいのある方への関わりの練習、ヘルパー等の制度のはなしなど） りじ ひらお ②理事の平尾さんにきてもらっての勉強会（テーマ：障がいのある方の生活の希望へのかかわり方、利用者情報のまとめ方） ちかざねせんせい ③近澤先生にきてもらっての事例検討会をしました。	